

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と環境 (温度環境、微生物環境、放射線環境) Human and Environment (Temperature, Microorganisms and Radiation)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員: 松田尚樹 / Eメールアドレス: nuric@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 先導生命科学研究支援センター・アイトップ実験施設 / オフィスアワー: 火曜日午前9時~10時			
担当教員(オムニバス科目等)	大渡伸(熱帯医学研究所) 竹下哲史(共同研究交流センター)		
授業のねらい/授業方法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい:</p> <p>日常生活において、温度、微生物、及び放射線・紫外線は我々が避けることのできない環境中の因子である。本授業は、これらの環境因子と人間との関係についての理解し、知識を深めることを目的とする。</p> <p>授業方法:</p> <p>3名の教員で上記の環境因子をそれぞれ担当し、PCを用いた講義を行う。</p> <p>授業到達目標:</p> <p>(1) 温度環境: ヒトの体温調節システムおよび体温維持の意義を理解する。さらに、暑熱・寒冷の温度環境における生体反応と温度順化を理解し、生命維持対策を導くことができるようにする。また、地球温暖化による熱帯感染症拡大を含め、ヒトへの影響を理解し、説明できるようにする。</p> <p>(2) 微生物環境: 人間や環境と、微生物との関わりを学ぶ。さらに、微生物は人間にとって有害であるということが強調されがちであるが、大部分の微生物は動物や植物の生活環境を支え、人間にとっても必要不可欠な協力者になっていることを理解する。</p> <p>(3) 放射線環境: 放射線と紫外線の基礎、人体に及ぼす影響、およびその防護体系・防護法について学び、放射線と紫外線の害と恩恵について、正しい知識に基づき自分の考えを導くことができるようにする。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>温度、微生物、及び放射線・紫外線について、まず基礎を概説し、次いで人間との係り、健康への影響、及びその対処等について各論を述べる。</p> <p>【温度環境・大渡】</p> <p>第1回(10月2日) 人間の体温調節</p> <p>第2回(10月9日) 発熱と解熱</p> <p>第3回(10月16日) 高体温障害と対策</p> <p>第4回(10月23日) 温度環境への適応</p> <p>第5回(10月30日) 地球温暖化の影響</p> <p>【微生物環境・竹下】</p> <p>第6回(11月6日) 微生物とは</p> <p>第7回(11月13日) 暮らしと微生物</p> <p>第8回(11月20日) 環境における微生物の役割</p> <p>第9回(11月27日) 環境浄化と微生物</p> <p>第10回(12月4日) 人間と微生物</p> <p>【放射線環境・松田】</p> <p>第11回(12月11日) 放射線と紫外線の基礎</p> <p>第12回(12月18日) 放射線影響</p> <p>第13回(1月8日) 紫外線影響</p> <p>第14回(1月15日) 放射線と紫外線の防護</p> <p>第15回(2月5日) 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 90%、授業への貢献度 10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	温度環境、微生物、放射線・紫外線に関連する新聞記事、ニュース等を読んでおくこと。		